

黄色く色づいたユズを摘み取る田中憲久さん＝7日、宇佐市院内町



大分県内最大のユズ産地宇佐市院内町で、ユズの収穫が最盛期を迎えています。

### 県内最大の産地・院内町

香りと色バツチリ

### ユズの収穫最盛期

県内最大のユズ産地宇佐市院内町で、ユズの収穫が最盛期を迎えている。JAおおいた宇佐事業部によると、多くの農家が裏年に当たるため、例年に比べて生産量は少なめ。香りや色づきは良く、青果での出荷が増える見込みという。11月下旬ごろまで作業が続く。

院内町は、昭和40年代後半から特産品としてユズの栽培が盛んになった。同事業部によると、現在、町内では80戸の組合員が約45畝で栽培している。生産量の約9割が、果汁を活用したジュースやジャム、ポン酢など加工品として使われている。今年約280トンの生産量を見込んでいる。JAおおいた宇佐柚子生産組合の

と話していた。

田中憲久組合長(67)は、約40年にわたってユズを栽培。同町小坂のユズ団地にある約1畝の農地には、黄色く色づいたみずみずしいユズが実っていた。木の枝に籠を掛け、剪定はさみで一つずつ丁寧に摘み取った。田中さんは「裏年に当たる木が多く、実は少し大きい。夏場に雨が多くて心配したが、良質のユズができた」と話していた。

(2014年11月8日朝刊12面)

①今年の生産量は約何トンで、うち約何トンが加工品に使われますか。

.....

.....

.....

.....

②ユズの加工品はどのようなものがあるでしょう。調べてみよう。

.....

.....

.....

.....

③木の「裏年」「表年」とは、どういうことでしょうか。調べてみよう。

.....

.....

.....

.....